

# 島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用又は他の研究機関への提供を希望されない場合は、下記の「本研究に関する当院の連絡先」にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	脳神経外科手術における術後感染とその予防法の研究
意義・目的	<p>脳神経外科手術でも周術期手術部位感染 (SSI: Surgical Site Infection) の予防は重要です。主たる感染原因菌は皮膚常在菌である黄色ブドウ球菌、連鎖球菌であり、これをカバーする抗菌薬の予防的投与が推奨されます。開頭術では、すでに種々の抗菌薬の多数の無作為化比較対照試験 (RCT) が実施され、抗菌薬の使用によって術後の髄膜炎発症が有意に減少することが示されています。我々は、日本の SSI に関するアンケート調査を行い、「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」作成にも貢献してきました。</p> <p>しかし、脳神経外科では、異物 (チタンプレート、人工骨、シャントチューブ等) を用いる手術後の薬剤耐性菌による感染等の問題があります。そこで本研究では、脳神経外科領域で、特に異物を混入した手術での SSI 予防の抗菌薬の種類と投与期間、感染後の適切な管理方法等を明らかにすることを目的とします。</p>
研究期間	当院病院長許可日 (利用開始日) 2020年5月7日～2029年12月31日
対象患者	1999年1月1日～2029年12月31日の間に当院へ入院し脳神経外科手術を受けられた患者さん
研究内容	電子カルテ等を利用して、「利用する試料・情報の項目」に示す項目を抽出し、抗菌薬と感染症の関連性を統計学的に検討します。個人が特定できる情報は削除した上で、島根大学医学部附属病院へ送付します。
利用する試料・情報の項目	<p>入院時年齢、性別、入院日、入院時 Japan coma scale (JCS) <sup>※1</sup>、Grasgaw coma scale (GCS) <sup>※2</sup>、病名、術式、合併症、入院時神経所見、CT、MRI 画像診断、術後感染症の有無、退院時転帰、培養結果、抗菌薬 (投与期間、種類) 退院時転帰、退院時 mRS <sup>※3</sup>、6か月後 mRS、既往症、合併症、血液データ、投与薬物 等</p> <p>※1 くも膜下出血による脳ヘルニアの進行の意識障害の評価方法          ※2 外傷性脳障害による意識障害の評価方法          ※3 脳血管障害だけに限定した日常生活動作の評価方法</p>
試料・情報の他機関への提供有無	<p>■あり ( ■国内 □海外 )          提供方法：ロック機能を搭載した USB メモリ          □なし</p>
提供を開始する予定日	当院病院長許可日 2020年5月7日
提供する試料・情報の項目	利用する試料・情報の項目」と同様

研究組織	<p>研究代表機関：機関名および研究責任者名 島根県立中央病院 井川 房夫</p> <p>共同研究機関：機関名および研究責任者名 島根大学医学部附属病院 脳神経外科 林 健太郎</p> <p>試料・情報提供を行う機関：機関名および施設長名 該当なし</p>
本研究に関する 当院の連絡先	<p>研究責任者： 島根県立中央病院 脳神経外科 井川 房夫 電話：0853-22-5111（代表）</p> <p>事務担当： 島根県立中央病院 臨床研究・治験管理室 電話：0853-30-6590（直通）</p>
個人情報の保護	<p>当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。 URL：<a href="https://www.spch.izumo.shimane.jp/privacy">https://www.spch.izumo.shimane.jp/privacy</a></p>
結果の公表	<p>投稿論文で公表予定です。</p>
備考	